

# 安全衛生

## 安全衛生の考え方

リコーは「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」という三愛精神に基づいて創業された企業です。すべての人を愛すること、祖国を愛すること、自分に与えられた任務を愛することを三つの愛とし、これは60年以上にわたる企業文化の礎を成しています。また、経営理念・行動指針にも「社会の発展と個人の幸福の一致をはかる」という人間主体の経営を掲げています。リコーの安全衛生活動は、三愛精神および経営理念・行動指針に基づき、つねに社員一人ひとりの安全を守り、健康的で明るい職場環境を提供し続けることを基本にしています。

### 基本方針

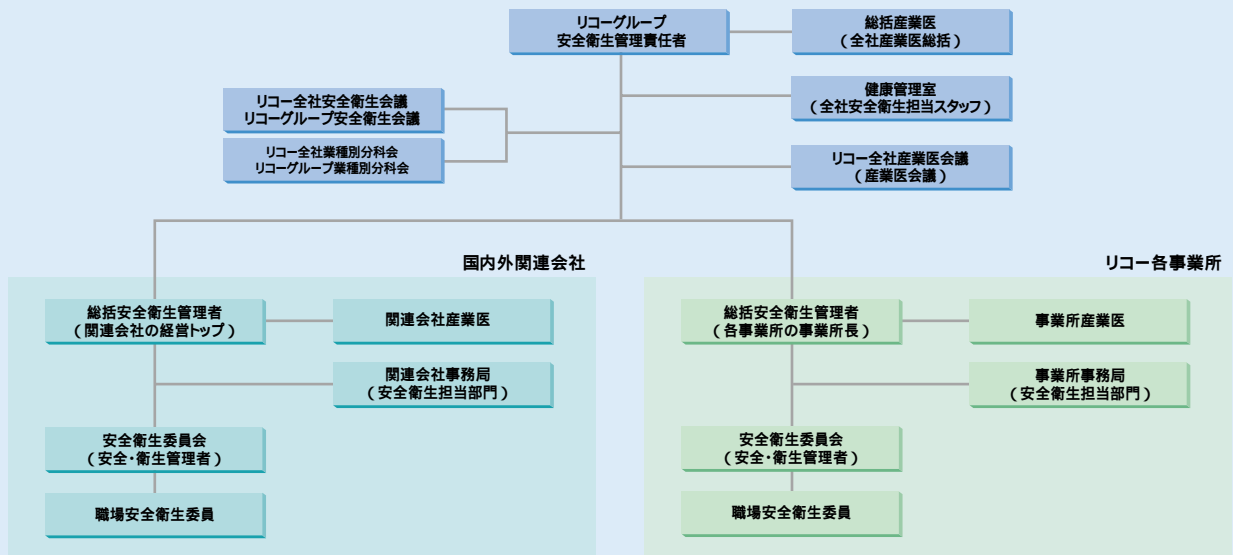
「経営理念」の実践を通じて、社員の安全と健康の確保、並びに快適な職場環境の形成を強く認識し、全社を挙げて、その実現に取り組む。

### 行動指針

安全衛生に関する国内外の関係法規を遵守するとともに、自主的な目標を設定し、その実現に努める。社員の安全と健康の確保、並びに快適な職場環境の形成を目指す過程で、自主的な安全衛生推進体制の維持・改善を継続的に展開する。安全衛生教育を通じて、全社員の意識向上を図るとともに、一人ひとりが広く社会の安全衛生活動に関心を持ち、自ら行動できるよう、啓発と支援を行う。あらゆる国や地域において、社会との連携を密にし、積極的な情報開示、安全衛生活動の助成・支援によって、広く社会に貢献する。

\*この方針・指針は制定中のため、変更する場合があります。

リコーグループ安全衛生管理組織(構想図)



## 活動の特色

リコーの安全衛生活動の特色は、第一に、「安全」および「衛生」それぞれの活動のバランスにあるといえます。製造業においては、安全衛生活動の中心が生産系事業所に偏りがちですが、リコーでは非生産系事業所にも同様のウエイトを置き、健康教室やカウンセリング、メンタルヘルスなど、健康増進や精神衛生のための活動を実

施しています。第二の特色として、ネットワークを活用した安全衛生活動があげられます。リコーがビジネスとして得意としているデジタルネットワーク技術を活用し、安全衛生情報のデータベース化・ネットワーク化を実現。これにより社内へのタイムリーな情報公開や、現場でのすみやかな対応、ノウハウの水平展開などが可能になります。

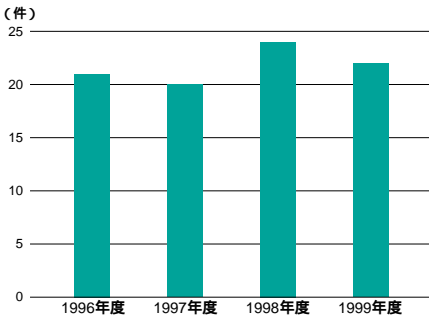


安全衛生情報データベース

### 安全活動

リコーは、生産系事業所を中心に、社員の自主的意思による現場密着型の安全活動を展開しています。具体的には、産業医による職場巡回、ヒヤリハット活動を通じた災害事故防止策の検討、災害事故発生時の徹底した再発防止策の検討と事業所内への水平展開、新入社員の導入安全教育、安全意識高揚のための啓発活動などがあげられます。これらの活動により、労働災害の低減に寄与しています。

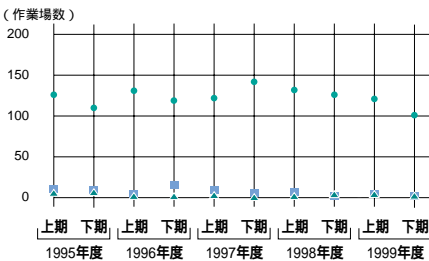
全社労働災害推移



### 作業環境測定

リコーグループは、業務による健康障害防止のために、作業環境測定を継続的に実施しています。法的に定められた物質の測定だけでなく、対象外の物質であっても健康影響に配慮する必要がある場合には作業環境測定を実施し、作業環境改善に努めています。

作業環境測定(リコーおよび国内のリコー関連会社)

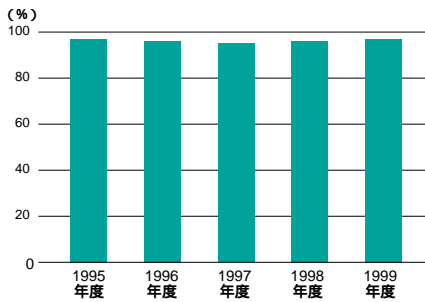


- 第1管理区分 作業場のほとんど(95%)の場所で空气中有害物質濃度が管理濃度を超えない状態
- 第2管理区分 作業場の空气中有害物質の濃度の平均が管理濃度を超えない状態
- ▲ 第3管理区分 作業場の空气中有害物質の濃度の平均が管理濃度を超える状態

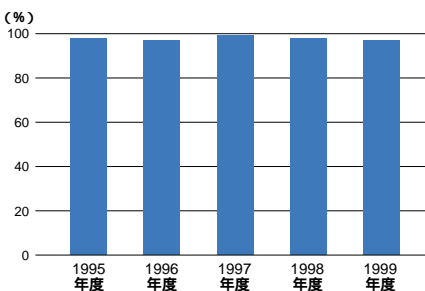
### 健康診断・人間ドック

リコーでは、40歳未満の社員に対して健康診断およびミニドック(35歳~40歳未満)を実施し、疾病の予防と早期発見を目指しています。また、社員の高齢化に伴う健康管理施策として、40歳以上の社員または管理職社員に対しては人間ドックの受診を義務づけ、よりきめ細かな健康管理体制を敷いています。健康診断や人間ドックの有所見者に対しては、再検査・精密検査・経過観察・投薬治療などのフォローアップ体制も確立されており、疾病の予防と発見および早期対処についての努力を続けています。健康管理への配慮は、社員だけでなく、その家族にも及び、配偶者を対象とした人間ドックの受診機会も提供されています。

健康診断受診率



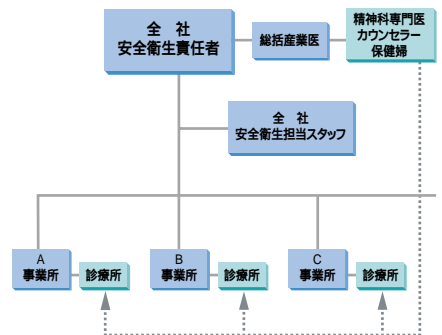
人間ドック受診率



### 産業精神衛生

経済情勢など企業を取り巻く環境の変化により、社員一人ひとりにかかる精神的負担は、以前に比較して大きくなってきました。それに伴い、産業精神衛生のための体制整備は、衛生管理だけでなく、経営の観点からも重要度を増しています。リコーでは、外部カウンセリングセンターとの委託契約および、精神専門医の診断に基づく休職・復職などの人事制度との連動によって、軽度の障害要因の除去や、精神的ストレスを持つ社員の早期職場復帰などをサポートしています。また、社内ネットワークを利用した簡単なストレスチェックを行えるシステムや、本人の希望があればカウンセラーにダイレクトに相談のメールを送信できるシステムも整備されています。

産業精神衛生体制



## リコー健康教室

生活習慣病などの予防と改善を目的に、リコーでは外部の専門家を招いて「リコー健康教室」を定期的で開催しています。2000年1月～2月には、「女性のための骨粗鬆症講座」を開催。女性社員だけでなく、診療所の看護婦も参加しました。その内容は、生活状況調査、骨密度測定、医師による問診と個人指導、保健婦による栄養診断と講演会の開催など多岐にわたり、また期間中は、社員食堂でカルシウムの豊富なメニューを提供しました。

### 女性のための骨粗鬆症講座

実施期間 2000年1～2月  
 対象 リコー青山本社事業所の全女性社員  
 参加者 103名/125名中(参加率82%)



## 啓発活動

社員一人ひとりの安全衛生への意識向上を図るため、リコーでは、社内報や社内ネットワークを活用した健康管理ニュースによって啓発活動を展開しています。四季折々にテーマが設定され、身体のメカニズムの基本的な知識や、疾病予防のヒントなどが掲載されています。



社内ネットワークを活用した健康管理ニュース



リコー三愛グループ健康保険組合誌「Wellness Club」

## 健康づくりモデル事業所

リコーの東京・青山本社は、1999年度の労働省の「健康づくりモデル事業所」の指定を受けました。2000年6月に、「健康づくり推進体制」「健康測定および健康指導の実施」「企業内スタッフの養成」などについての実施報告書を労働省に提出。これらのプランを実現するための活動を通じて、よりレベルの高い安全衛生活動にチャレンジしました。

## 課題と今後の展開

非生産系事業所での活動を重視している点、そして、安全衛生情報のデータベース化・ネットワーク化といった、リコーならではの特色は、日本国内にとどまっておらず、グローバルな規模での運営には至っていないのが現状です。リコーは、「労働安全衛生マネジメントシステム」の導入と展開を通じて、より高いレベルの安全衛生活動を目指し、関連会社を含む組織的な活動を推進していきます。